

集



みずきじゅうごどう
水木十五堂

神主・奈良県立大学客員教授

岡本彰夫

AKIO OKAMOTO



おかもと・あきお | 1954 (昭和29)年奈良県生まれ。國學院大學文学部神道科卒業後、春日大社に奉職、春日大社権宮司(2015年退職)。奈良県立大学客員教授、宇賀志屋文庫庫長。著書に『大和古物散策』『大和古物漫遊』『大和古物拾遺』(ペリカン社)、『神様にほめられる生き方』(幻冬舎)、『神様が持たせてくれた弁当箱』(幻冬舎)、『大和のたからもの』(淡交社)など多数。

水木十五堂翁をご存じだろうか。

「大和の水木か、水木の和か」とまで称された碩学である。

翁は元治2年(1865)、伊予国南伊予郡伊予村の農家に生まれ、幼時より秀才の誉れ高く、6歳にして藩主大洲侯の御前で「萬歳」を揮毫したという。長じて松山中学に入学。松山中学では正岡子規と一緒にであったという。後年子規が大和来訪の際、双方面会もしていないところを見ると、あまり仲は良くなかったのかもしれない。

その後東京高等師範学校に進学したが、騒動に巻き込まれ、退学したらしいが、奈良県第一中学の旧制郡山中学教諭として、奈良に赴任した。この時の校長が後に、東京美術学校校長に就任する正木直彦であった。

令孫笹夫先生の話によると、生まれた日も十五日で、十五という数字が好きで、風呂屋の下足箱も十五であったという。

明治42年奈良女子高等師範学校(現奈良女子大学)教授に就任、続いて大正2年奈良県史蹟勝地調査委員、同4年奈良帝室博物館学芸委員、同12年勅任官待遇となり、翌年勲四等瑞宝章を授与され昭和2年に退官した。

学問的業績も高く、郡史の編纂にも多く携わり著作も多いが、何といっても大きな功績は、史料の蒐集と研究であった。私は常に翁の功は、集めて、深めて、掘められた事だと説明している。

赤膚焼の名工奥田木白や、奈良人形の森川杜園、そして郡山藩士で書画に秀でた柳里恭の研究と顕彰は翁が逸早く手をつけられ、

基本中の基本たる研究を成し遂げられた。その膨大な蒐集品は、笹夫翁が地元柳沢文庫を始め奈良県内の博物館・美術館・図書館への収納に奔走されたが、大部分は国の歴史民俗博物館が購入し、十五堂が会う人毎に揮毫を乞われた、世に言う、水木の大幅帳は、県内の天理図書館に寄贈された。

取りわけ大和に遺したい物や、ゆかりの品は手元に置かれたが、私にもお声がかかり、割譲して頂いた品も多い。

コレクションはその人の志であり、美意識であり人格である。只々死蔵すべきでなく、物そのものが、史料そのものが、いつ迄も光彩を放つ研究であり、活用であり、保管を続けていかねばならないのである。



水木十五堂收集品 柳里恭書簡類
攝影：岡下浩二